



わたしの空と五・七・五

もりの
森埜こみち作

やま だ かずあき
山田和明絵

こうだんしゃ
講談社

ちゅうがくせいになつて、十日目。教室の中は、友だちづくり
が着々と進んでいる。このままでは、やばい。そう思っ
てはいても、何もできない臆病な自分がいた。そんな
時、下駄箱に入れられた一枚の紙が、わたしを動かす。
「しゃべりは苦手でもペンをもったら本音をぶちまけら
れる者よ！ 文芸部に入るべし」
五・七・五に思いをこめて、表
現する俳句。自分を出すことが苦手
な少女・空良が、気持ちを言葉に
して、友人との関係を深めていく。
それでは、一句献上いたします。

